

1 記念館の利用の承認等に関する業務

● 来館者数の動向

第4四半期の総来館者数は、前年同期の来館者が著しく多かった影響で開館以来の同期比平均をやや下回った。展示事業はやや落ち込み過去3番目に少なかったが、上映事業については開館以来の同期比平均を超える来館があった。特に1月の上映事業は、同月比で過去最多となる来館者数を記録した。

2 記念館の施設及び設備並びに資料等の維持管理に関する業務

● 施設・設備の維持管理

- ・通常の設備保守・点検等が適切に実施されている。
- ・館内施設管理については適宜報告があり、記念館の環境維持に配慮した施設管理を実施している。
- ・市実施の木塀修繕及び手摺修繕に協力し、施設の維持管理に努めた。

● 資料等の維持管理

- ・施設の特性を考慮しつつ、適正な維持管理が行われている。

3 記念館の事業の企画及び実施に関する業務

● 上映及び展示

- ・事業計画どおり、通常展や特別展、上映事業を実施している。
- ・展示事業では、第3四半期から引き続き黒澤明監督と俳優三船敏郎の特別展を開催した他、往年のヨーロッパ映画を辿る企画展、鎌倉を舞台にした映画や映画人を紹介する特別展を開催した。
- ・上映事業では、展示事業に関連した作品の上映とともに、優秀映画鑑賞推進事業として通常見る機会の少ない時代劇の上映を行った。また、中央図書館との共催事業として、鎌倉に縁のある杉原千畝をテーマとした映画を上映した。バリアフリー上映(音声ガイド・日本語字幕付き上映)としての上映も行い、映画を見る機会が少ないと思われる視覚・聴覚障害者が映画を楽しむことのできる機会を提供した。昨年度に引き続き、若手実力派の映画監督による作品を上映する「日本映画の新しいカタチ」を開催し、若い世代の来館者からも好評を得た。この他、映画上映後にアーティストによる映画音楽のコンサートが付いた特別上映を初めて行った。

● 調査、研究及び情報提供

- ・映画関連資料の調査及び研究や、国立フィルムセンターをはじめとする関係機関や施設との情報交換等を行い、最新の映画関連情報の収集に努めた。
- ・情報資料室において映画資料や関連図書等の情報提供を行った。また、映画上映時に配布している各作品の概要をまとめたリーフレットを綴じたものを配架し、誰でも手に取って見られるように整えた。
- ・映画におけるデジタル保存と活用を考えるシンポジウムにて、今後のデジタル作品の保存や最先端の技術などについて調査し、関連資料を情報資料室に配架して情報を提供した。

● 広報及び宣伝等

- ・市広報に展覧会や上映内容などの情報を掲載している。さらに、庁舎内のモニターによる広告も利用し、より多くの市民等へ情報を提供した。
- ・チラシの配架及びポスターの掲示等によるPRにより記念館の広報及び宣伝等に努めた。
- ・特別展「鎌倉映画地図」は特に多くのメディアから取材を受け、当館の存在を知らない方々への周知・宣伝が図られた。

● その他の事業

- ・例年子どもを対象に実施しているシナリオ教室を、昨年度に引き続き一般向けに実施したところ、幅広い世代の参加が得られ、満足度の高い事業となった。
- ・中央図書館との共催事業「川喜多アワー」として、中央図書館にて展示事業に関連したテーマのトークを行い、川喜多夫妻の業績を伝えとともに川喜多映画記念館をPRした。
- ・展示企画に関連した黒澤明監督の娘で映画衣装デザイナーの黒澤和子さんのトークイベントを開催し、満員盛況であった。
- ・「こどもおはなし映画館」と題し、市民団体の協力を得て子ども向け作品の朗読と映画上映を楽しむワークショップを開催し、川喜多映画記念館を訪れることの少ない小学校低学年までの子どもと親という新しい世代を取り込むことに成功した。参加者募集を広報するとすぐに定員に達する人気で満足度の高い事業となった。

4 その他市長が定める業務等

● 事務処理

- ・例月の指定管理業務報告書等は期日までに提出されている。
1月分:2月14日、2月分:3月14日、3月分:4月14日提出
- ・利用者からの声に対しては迅速に回答し、管理運営に反映させることを検討している。

● 事故・苦情対応

- ・事故・苦情はなし。

● その他

- ・3月20日及び22日から26日までの6日間、市依頼のアンケート調査を実施し、市民利用率及び展示や上映、職員の対応などに対する来館者の満足度を割り出した。
- ・市実施の「若手アーティスト支援事業」のため、旧和辻邸を開放する協力を行った。

5 全体評価

- ・第4四半期としては、過去最多の来館者数を記録した前年同期と比較すると大幅な来館者の減少となったが、開館以来の同期比で見ると、おおよそ平均的な来館者数と言える。ここ2年の第4四半期は、年々と来館者数を伸ばしていたため、3年ぶりの減少となった。展示事業については、開館以来3番目に少ない来館者数となり伸び悩んだが、3月後半からの特別展「鎌倉映画地図」は多くのメディアに取り上げられたため、今後の来館に期待したい。一方で、上映事業については過去3番目に多い来館があった。上映1回あたりの入場率が約85%で高い水準にあると言える。上映事業では映画上映後に鎌倉で活動するアーティストによる映画音楽のミニコンサートを実施するなど、来館者により満足してもらうべく新しい試みに挑戦する姿勢は大いに評価に値する。次年度以降も積極的な姿勢で、限られた展示スペースに趣向を凝らし展示事業の来館者数増加にも引き続き取り組んでもらいたい。
- ・施設の維持管理などの業務に関しては、細やかな報告が概ね徹底されており、施設管理者に対して市が求める水準に達している。

平成28年度第4四半期判定評価表

【川喜多映画記念館】

評価項目	判定点	第4四半期 評価結果	減点
1 利用の承認等に関する業務			
来館者数の動向			
入館者数が前指定期間の同四半期の平均値と比較して80%以上の水準にあるか(不可抗力を原因とするものを除く)	5	○	
2 記念館の施設及び設備並びに資料等の維持管理に関する業務			
施設・設備の維持管理			
定められた点検が実施されているか	5	○	
不具合箇所を放置せず、必要に応じて修繕を実施しているか	5	○	
庭園、進入路などの手入れはきちんとされているか	5	○	
資料等の維持管理			
資料等の維持管理は適切に実施されているか	5	○	
3 記念館の事業の企画及び実施に関する業務			
上映及び展示			
計画どおりに企画展が開催されているか	5	○	
予定どおり映画上映が実施されているか	5	○	
調査、研究及び情報提供			
映画関連資料等の調査・研究を行っているか	3	○	
研究の成果を公開しているか	3	○	
その他必要な業務			
展示・上映以外の事業は適正に実施されているか	5	○	
来館者ニーズの把握・反映につとめているか	5	○	
4 その他市長が定める業務等			
事務処理			
決められた期日までに報告書は提出されているか	5	○	
市との連絡調整はきちんとされているか	5	○	
市と協議を行った事項は確実に実施されているか	5	○	
固有の銀行口座で適正な会計処理を行っているか	10	○	
苦情対応			
来館者や近隣との間のトラブルに適正な対処をしているか	5	○	
苦情・要望への迅速な処理、市への報告はされているか	5	○	
その他			
研修等自己啓発の努力がされているか	3	○	
災害時の対応ができるよう、準備はされているか	3	○	
個人情報適切に管理されているか	10	○	
減点の計			0

実施されている場合・・・○ 実施されていない場合・・・×

減額率

減点の合計	減額率
10～15	5%
16～20	10%
21～	20%